●第53回全道造形教育連盟空知大会特集●

もくじ

・大会風景（表紙）
・第53回全道造形教育連盟
　空知大会実行委員長挨拶　2
・空知美術教育研究会　研究部長の言葉　3
・空知（滝川）大会に参加して　4〜7
第54回全道造形教育研究大会旭川大会案内　7
地区サークル近況だより　8

北海道造形教育連盟報

No.117　2003.12.25発行

発行　北海道造形教育連盟
委員長　藤井　正治

事務局　札幌市立八軒小学校　富田　泰
〒063−0844
札幌市西区八軒4条西1丁目
TEL642-0155・FAX642-4946

空知大会を終えて

第53回造形教育研究大会空知大会
実行委員長 **佐 藤 正 幸**

緑豊かな田園の広がる空知野の大地で，「つくる喜びを実感できる造形教育」の実現をめざした第53回全道造形教育研究大会並びに第40回全空知子どもの作品を語る会を開催いたしました。お陰様で全道各地から多数のご参加をいただき，約300名の参加者による熱心な研究討議をすることができました。また，当日は，北海道教育庁空知教育局次長の高村満様，滝川市教育委員会教育長の安西輝恭様のご来賓並びに，道造形連盟会長の藤井正治様，連盟顧問の先生方のご臨席を賜り，盛大に開催できましたことに心から感謝し厚くお礼申し上げます。

空知大会の準備・運営に関わった私達は，「造形教育を通して心豊かに未来に生きる子ども達を育てよう」を合言葉にして，本大会の開催に向けて全力で頑張ってまいりました。今の子ども達には，何が欠けているのだろうか。豊かな感性や自ら学んで生きようとする力を育てるためには，どのような教育をしなければならないのだろうか。図工・美術教育の役割とは，何なのだろうか。などの議論と実践を積み重ねて，本大会では若い教師を中心とした実践発表をさせていただきました。空知には，子ども達の作品を通した研究討議による『全空知子どもの作品を語る会』という研究大会があり，40年にわたる研究の歴史があります。

自由な雰囲気の中で，子どもの感性や個性を大切にした空知の造形教育研究で積み上げたものは，先輩から若い教師達に引き継がれた貴重な財産であると考えています。本大会では，全道各地で熱心に実践研究をされている先生方や講演会講師の寺内定夫さんのご示唆と貴重なご意見をいただき，私達が日頃から美術教育で実践してきたことに確信を深めると共に，さらに視野を広げることができました。このような成果をあげて大会を終了できましたことに心からお礼申し上げます。また，各地から大会運営にご協力いただきました関係者の皆様には重ねてお礼申し上げます。

振り返りますと，昨年の夏，帯広・十勝大会のレセプション会場であった池田ワイン城で道造形連盟旗を空知に引き継ぎ，それから本格的な準備に入りました。空知での全道造形教育研究大会は4回目，その内の3回は今回同様に滝川市立東小学校を会場にして行われています。しかし，15年ぶりの開催でしたので前回の大会運営に関わった教師も少なく，空知美術研究会の若手会員教師が中心となって無我夢中で大会準備を進めてきた経過があります。その準備を進める中で美術教育のあり方を再認識し，仲間の結束の大切さや関係機関との対応の仕方などを学ばさせていただきました。また，大会直前には2回のプレ研究授業が行われ，研究担当者や熱心な若手教師達による研究討議が積み重ねられています。大会成功に向けた若手教師達の情熱と研究の積み上げは，今後の空知の造形教育に何か明るい期待ができるのではと思っています。

今大会では，「ふれあう」「さぐる」「つくりだす」という3っのキーワードを設定し，素材や人とのふれあい・素材や表現方法を探り・造形活動を通して作品や人との関わりを深めて，造形活動をする喜びを大切にする指導の実現をめざしてきました。6っの公開授業と分科会を行う中で，私達のめざす考えを述べ，参加者からの貴重な実践やご意見を聞くことができました。大会の講演の中でも寺内貞夫氏から「真実をしっかりと見つめさせることのできるのが美術教育であり，私達大人は子ども自身の感性を大切にした共感的理解と行動をしなければならない」という率直な意見を拝聴することができました。

私達は，全道各地から参加された皆様との熱い論議を交わす中で，空知の美術教育の進むべき方向へのご示唆を与えていただき，貴重な財産とすることができました。ありがとうございます。

閉会式を兼ねたレセプションは，ジンギスカン発祥の地といわれる松尾ジンギスカンで行わせてもらいましたが，庶民的な雰囲気の場にもかかわらず120名余りも参加していただき感謝しております。

最後になりましたが，本大会をご支援して下さいました北海道教育委員会，滝川市教育委員会，お世話いただきました会場校の皆様，道造形連盟の皆様に深く感謝とお礼を申し上げます。

次年度の旭川大会が今年以上に実りある大会となりますよう心からご祈念申し上げます。

「ふれあう」「さぐる」「つくりだす」は、これからの教育にますます重要になるキーワード

空知美術教育研究会
研究部長 **鎌 田 俊 博**

道内は依然として景気が低迷し、生活における個人格差が広がる傾向が強く、少年犯罪を筆頭に、犯罪が年々凶悪化する傾向にあることが大きな社会問題となっています。情報は氾濫し、世界中のことが共通した認識となる反面、周囲の人や物との関係が希薄になりつつあります。学校に目を向けると、昨年度から学習指導要領が変わり、学校5日制が始まる中、図工・美術の時数は大幅に削減されるなど、子どもを取り巻く環境は大きく変わりつつあります。また、この空知をはじめ道内の多くの学校が小規模化することに伴い、美術の免許を持つ教師が減少し、図工美術を免許外で教えている先生が増える傾向にあります。こうした変化に対し、私たち教師側がどう変わり、どう図工美術を変えていくのかということが重要であるにもかかわらず、現実には大幅な授業時数の削減に対する教師側の準備不足からか、単に作品を小さくしたり、トレーニング題材が増えたり、マニュアルやキット教材に頼ったり、すぐに子どもが熱中するような安易な題材に流される傾向が強いように思えます。私たち図工・美術教師の中では教科がなくなることに対する危機感から、基礎基本に立ち返った研究がされてきました。しかし、基礎基本の捉え方の違いから「教え込まなければならない内容」を限定し、狭めていこうとする教師も少なくないようです。

私たち空知では、こうした子どもを取り巻く生活環境の大きな変化に対し、今だからこそ、そして図工美術だからこそ「教えることができる」「身につけさせることができる」力を育んでいく必要があるのではないかと考え、現在「図工·美術」に求められている題材(教材）の選定について大切な要素を以下の3点にまとめました。

1．ふれあう

作品や対話を通して人や物と直接接し、さわり、育て、加工し、特性を理解するといった実生活・実体験を大切にした題材（教材）を選定し、子どもに実感を伴った理解をさせ、人間相互が想いを伝えあう行為を大切にする。

2．さぐる

素材や表現方法を試行錯誤しながら葛藤し、自己決定し、想いを巡らせる行為を大切にする

3．つくりだす

造形活動を通して作品を作り出す喜び。自己表現を通して自己を客観的に観察する力を養う。

作品鑑賞などを通して自分以外の考え方やものの見方などの個性に接し、理解し、共感しあう中から人間関係をつくりだす。

図工・美術を専門としない教師にとって、作品（結果）至上主義に陥りがちな教科であることから、図工・美術嫌いを多く生み出してきた背景があります。地域の題材を掘り起こし、子どもの生活に深くかかわるような教育課程を編成していくことは、今の多忙な日常の中では大変厳しいことではありますが、私たち図工·美術教師はこの教科を存続させ、人間形成に重要な役割を果たしていくためにも必要なことだと強く感じています。そのためにも、上記の3つのキーワード（ふれあう・さぐる・つくりだす）を生かした教材(題材)を設定し、子どもが「何を」「何で」「どのように」制作するのかを、試行錯誤しながらとりくむ制作過程を大切にした授業を展開をしていくことがつくる喜びを実感できる造形教育にむすびつくものと考えるし、これからの図工・美術教育にとって大変重要なことであると考えます。また、今回「空知大会」を進めるにあたり、多くの仲間達と連日の話し合いをする事により、自分自身がより図工・美術に対する見識を深めることができたことに感謝しています。空知の良き伝統である「語る会」の形式が「お土産」として全道に広まっていくことを期待しております。

空知(滝川)大会に参加して

滝川市立東小学校
滝川市文京町2丁目1－1
TEL. 0125-23-1591

授業を終えて

【小学校５年　構成　授業者】
滝川市立東小学校　**中　澤　孝　仁**

昨年より，自分自身いくつかのテーマに沿って題材を設定しました。

１つ目は「集合作品」。みんなで一つの作品をつくりあげるのではなく，同じテーマのもと，一人ひとりがつくった作品を組み合わせて大きな一つの作品をつくりあげるのです。

そうすることにより，個々の自由な表現が可能であり，全員に同じ機会を与えることができ，また評価もわかりやすくなります。

２つ目は「抽象」。街にあふれる現代アートを理解するためには，抽象に親しむ体験が必要であると考えました。言語と同様に年齢の小さいうちから様々な形態の作品に親しむことで，制作にも鑑賞にも幅が広がるのではないかと考えたからです。

３つ目は「公共性」。ランドスケープというほど大げさではありませんが，子供の作品が共有空間の一部として存在し，その場を利用する者に何かしらの影響を与えることができたら，作品自体がより大きな意味を持つと考えたからです。

今回の授業ではその３つを織り交ぜ，学級目標の具現化に向けた題材を設定しました。

完成した集合作品を見る子供たちの顔と，照れ隠しの小さな歓声。題材としてよかったか？またはダメだったか？教師の反省も多数ありますが，あれもこれもやってみたいという「教師の欲張り」もどんどん湧き出してきました。

授業を見て下さった方々，分科会に参加して下さった先生方，ありがとうございました。

美しい形を探ってみよう

【中学校「さぐる」分科会　語る会ガイド】
岩見沢市立上幌向中学校　**富　石　由　華**

ここでは，「さぐる」に力点をおき，自己の感情のイメージを抽象形で表現する授業が公開されました。

教室内には色や材質の違う紙などがたくさん用意され，子供たちは自分のイメージにあった素材を直接手に触れ，確かめながら選び，形を組み合わせ抽象形に構成していました。過去に，自分の感情が揺れ動いたときの記憶をイメージし，色や形に置き換えていく。１年生での抽象表現が難しいとされる中，ワークシートにまとめ直接素材に触れることで発想を引き出すことが出来ていました。

授業反省では，鑑賞による導入の重要性や作品交流での慎重さ，コミュニケーションの必要性や手段などにかかわる参考意見が出されました。

「作品を語る会」では，基礎技能に重点を置いたレモンの水彩画や環境汚染や交通事故など，社会問題をきっかけに心に訴えかけたポスター。教師のコメントを丁寧に書き添え，コミュニケーションを大切にした鉛筆による抽象画。水墨画の習作やモダンテクニックで自己の内面を表現した構想画。２点通透図法による平面構成やロンズ粘土による自分の素足など，多くの作品が紹介され，活発な話し合いを生んでいました。また，社会科と公民との総合学習や地域学習のような形で取り組める題材など，教科の危機を乗り切る方法も出されていました。「関心・意欲・態度」などの評価の難しさなども話題に上り，まだまだ話し足りないといった盛り上がりの中，会を閉じました。

子供たちの思いを無限に表現できるようにする技術指導

【大会分科会参加者】
追分町立追分小学校　**香　田　　恵**

小学校高学年の「All　for　One.　One　for　All!」。

デザインコンペを行い，どんな作品になるかわからない中で，子供たちが各パーツごと担当し，全員でつなげて一枚の絵を作り上げるという授業だった。

「これは，みんなのを合わせるとどんなのになるのかな。木かな，川かな。つながるところは同じ色にしよう。隣に（流れがつながるように）同じ色を塗っていいかな？」などと，隣り合う絵の子供たちが交流，相談し合いながら彩色していた。

分科会は，絵画を中心に各学校の実践交流だった。全体的に子供たちの思いを形に表すことを主題に置いていた。それはとても大切なことである。しかし，「何の力がついたのか」はっきりわかる授業を目指す必要があると思う。そうでなければ，子供たちの思いをどのように表現してよいか分からない場合もあるからである。

今回の連盟の全道大会は，造形教育の無限の可能性を感じるものだった。

研究の広がりを感じて・・・

【大会分科会参加者】
札幌市立手稲中学校　**石　川　早　苗**

今回は『全空知子どもの作品を語る会』も同時に開催され，分科会の内容が盛りだくさんなものとなり，語っても語り尽くせないという感じの先生方も多かったようです。

公開授業の方は中学校の授業しか見ることができませんでしたが，3つのキーワードとしてあげられた　**ふれあう・さぐる・つくりだす**　という視点に根ざした授業をつくろうと，どの先生方も熱心に授業をされていました。

この3つのキーワードも一昨年の全国大会で連盟が提案した　**かんじて・つくって・ひらいて**　を基にしていることがみとれ，連盟の研究はこのようにして広がり，流れていくものなのだなと実感しました。毎年，このように研究大会に参加させていただいていますが，各地区で少人数でもがんばり続ける先生方の存在を知ることは，札幌という恵まれた環境の中で，人数がいるから自分は何もしなくていいだろうと，つい逃げ腰になっている自分の姿を振り返るよい機会となっています。

第53回全道造形教育研究大会空知大会に参加して

【大会分科会参加者】
旭川市立忠和小学校　**藤　瀬　育　子**

天候も恵まれた7月29日（火）に行われた空知大会では，アイディアあふれる授業と子供がのびのびと作品作りに取り組む姿勢がとても印象的でした。

体育館に入ってすぐに，画板を置くために逆さまにされた椅子が4，5人を一グループとして丸く並べられていて，子供たちを一人一人思いやる授業者の桔梗先生の工夫で，授業の内容だけでなく，授業を行う環境にも目が行き届いているということに感心しました。

体育館の奥では，体育館の広い場所を生かした大きな絵。小学校5年生の子供たちが夢中になりながら，思い思いに下描きされた画用紙に色を塗っていました。一人一人の個性あふれる表現が組み合わさり一つの大きな作品になると，どんなものができるのだろうと，作っている子供たちはもちろんのこと，見ている私たちも，どうなるのかワクワクしながら授業を見ていたと思います。

今回初めてこのような大会に参加したのですが，子供たち一人一人の個性を生かした授業作りに触れるとともに，それぞれの先生方の個性あふれる授業を見ることができて，大変勉強になりました。これからも，いろいろな先生方を見習い，よりよい造形教育を目指して研究に努めたいと思います。

輝く子どもたちと出会って

【大会分科会参加者】
留萌市立東光小学校　滝　本　都　子

「どう指導してよいか，よく分からない。どう子供たちに寄り添っていけばよいのか，迷ってしまう。どんな題材がよいのだろうか・・・」などなど，図工に関する悩みは多いもの。しかし，国語や算数と違って，書店に並ぶ本の数はほんの少しです。それならと決心し，初めて全道造形教育研究大会に参加させていただきました。

低学年の授業を中心に見せていただきました。図工のよさは，題材と出合った時の子供たちの驚きや喜びを見ることが出来ることだなと，改めて感じました。キラキラした目で活動を進めていく子供たちを見ていると，その輝きを感じることのできる感性を自分自身が磨くことこそ必要だと強く思いました。きっとそれは，評価とは違うとされてしまうのでしょうが，とても大切なことだと思います。

そのようなことを考える機会を与えてくださった全道大会。作品を語る会も非常に興味深いものでした。これをどう子供たちに返していくか・・・。私のこれからの課題です。

感性を楽しみ合える造形教育

【大会分科会参加者】
伊達市立長和小学校　小　島　充　雄

今回，中学年の授業を拝見させてもらい，また，寺内先生の講演を拝聴させていただいて，勉強になった点がいくつもあった。その中でも特に，子供の思いを育む授業の大切さを実感した。ただ描かせればいいのではなく，「ここをああしたい，こうしたい。」と自分の思いに寄り添っ表現を楽しんだり，素直に自分の思いが伝えられるような授業は，素敵だなと思った。

そのためには，教師が子供の気持ちや思いをどこまで共有できるか，自分自身の感性を磨いていくことも必要になると思うので，今後努力していきたい。

また，分科会で鑑賞の評価について質問したが，特別鑑賞の時間をとらなくても，普段の授業で描くこと，意見交換し合うこと，教師とのやり取りから垣間見える子供の思いなどから，子供の鑑賞力を見取っていくことも可能であるといったご意見をいただき，参考になった。

最後に，大会運営にあたられた先生方，授業者のみなさん，どうもありがとうございました。

小学校高学年の「子どもの作品を語る会」に参加して

【大会分科会参加者】
南茅部町立臼尻小学校　大　場　育　夫

10校余りから出された学級全員分の子供たちの作品を見ながら，絵の色や指導方法や構図，やってみた中での工夫などを出し合いながら，学ぶことができました。

時間数が少なくなる中，誰しも悩みながら，「少しでも子供たちの心に食い込む指導を」という思いはみんな一緒でした。語る会では，キャリアのある先生の経験や知恵と，若い先生の失敗を恐れないやり方とが交じり合える座談方式の深め合いのよさが出ていて，実りある話し合いができました。

絵とは，心が動いて感動があるからこそ描いていくもの。そのきっかけを作ったり，まとめの触媒になったり，お手伝いをしたり・・。図工や美術の先生だからこそ担える役割だと思うと，幸せな気持ちになるのを確かめることができました。

当たり前のことを当たり前にできる能力と気力。でも，これは一人では持ち続けることはできません。仲間からの励ましや支えがあればこそ。こんな感想を持たせていただいた分科会でした。

子どもたちの手から生まれた素敵なプレゼント
～ムニュムニュ　うれしいものをつくろう～

【小学校低学年分科会ガイド】
北海道教育大学附属札幌小学校　**堀　口　基　一**

「大好きなあの人に，つくってあげたいんだ。」

子供たちのそんな素直で優しい気持ちがあふれる授業でした。授業をしてくださった先生の「低学年の子供たちの五感をしっかり育てたい。」という思いが「素材へのこだわり」を，「願いを染み込ませながら表現させたい。」という思いが「題材の方向」をしっかりとしたものにしていたと思います。一人一人に準備」された小麦粉に水を加え，練り始めたとたんに色がみるみる出てきたときの感動は，参会者の皆が感じたことではないでしょうか。小さな手で一生懸命に小麦粉を粘土状にする子供たちのひたむきな姿も印象的でした。分科会では，小麦粉粘土の材料体験としての価値や教材化について，また，低学年の子供にとっての相手意識と表現活動についてなどが話し合われました。参会者からは，具体的なアイディアを織り交ぜた意見も多数出され，有意義な時間となりました。

引き続いて進められた「作品を語る会」も，弁華別中学校，棚田先生の名司会のもと，７名の実践が発表されました。中では，題材のテーマや技法指導にかかわる説明に対しての参会者からの意見が交流され，悩み相談的な雰囲気ではなく，子供にとってより意味のある造形表現活動とは何かを共に考えた，まさに全道大会であったと思います。

改めて本大会にご尽力された皆様に感謝いたしたいと思います。年に一度の"造形同窓会"である全道大会を，これからも大切にしていきたいと思いを新たにしながら，夜の滝川をあとにしたのでした。

第54回 全道造形教育 研究大会 旭川大会

大会テーマ

『豊に　おもいをふくらませ　あらわす喜びを』

研究主題

生（なま）の造形教育

～身体で感じ，感性を磨くための出合いを求めて～

期　日　**平成16(2004)年7月28日(水)**

場　所　**旭川市立神楽中学校**
旭川市神楽6条12丁目（0166－61－7196）

日　程　**（予定）**

受　　付	8:30～
公開授業Ⅰ	9:00～ 9:50（小学校4･5）
公開授業Ⅱ	10:00～10:50（小学校4･5）
開会式･全体会	11:15～12:00
分　科　会	13:10～15:10
歓迎レセプション	18:00～
（閉会式）	

大会事務局：旭川市立永山南中学校
旭川市永山町5丁目118番地　TEL 0166-48-8117　FAX 0166-48-8116

地区サークル近況だより

空知美術教育研究会

●空知美術教育研究会　事務局長

滝川市立東小学校　**中　澤　孝　仁**

今年度の全道造形教育研究大会との同時開催で40回目を迎えた『全空知子どもの作品を語る会』。

この活動が空知美術教育研究会のスタンスを一番色濃く表しています。持ち寄った子どもの作品を見たり、お互いの意見交流の中から何かをつかみ取り、現場での実践に生かす。ベテランも新卒も気軽な話し合いの中で、指導法や教材観、図工・美術の教科性、さらには子どもの生活像まで語り合うという「自主的な研究実践の積み重ね」の場として、毎年管内の小学校を会場に開催されています。

また、会員美術展やデッサン会を定期的に行い、会員自身の意識の向上を図ったり、毎年1月に行われる『新春ゼミ』や夏に行われる『スケッチ旅行』では、現役とＯＢ・ＯＧが泊まりがけで懇親を深め、図工・美術教育についてのあつい思いを交流したりと行事も盛りだくさんです。主体的かつ自由な空美の雰囲気をあなたも是非一度、味わってみませんか？

【この近況は７月にいただいたものです。】

組織の新パワーに期待して

●根室造形教育連盟

別海町立別海中学校　**大　井　誠一郎**

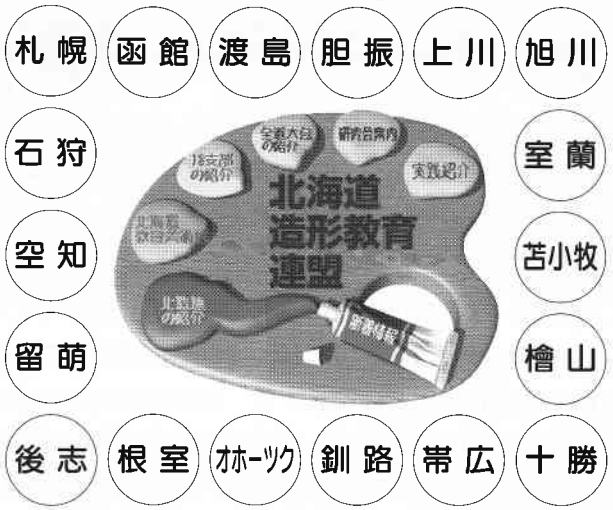
当連盟も15年度総会を終え、新役員体制による船出が始まっております。

1市4町から構成される管内的な当面の課題としては、やはり新規会員がなかなか期待できないことにあります。とは申せ、なんとか総勢20名を越えることができました。それでも実質的には当連盟独自の企画推進だけでは無理があり、これまで通り各市町教育研究会の図工・美術サークル活動との連携で事業計画を絡めていかねばなりません。今年度は別海町の当該サークルとの協賛の形で〔版画領域〕を中心に、授業の導入段階を焦点化させた実技研修を深めていくこととなりました。当連盟の存在感をここで広くアピールしつつも造形教育活動の原点に立ったスタンスで、若い世代の会員諸氏の更なる成長と実践力に期待をしていきたいと考えている今日この頃です。

あとがき

第117号をお届け致しました。お忙しい中，原稿をお寄せくださいました先生方に厚くお礼申し上げます。空知大会は，天候にも恵まれ全道各地から大勢の参加者が集い盛会のうちに終わりました。その活気に満ちた大会風景を特集し誌面構成しました。また，ご活躍されております各サークルの近況もご協力のもとで掲載することができました。これからもどしどしお寄せいただきたいと思います。

造形連盟広報部（中山龍男，三井　哲，山室ゆかり，東　尚典，加藤正幸，土井善範）



サークル活動の活発化を目指して

●檜山造形教育研究会

江差町立江差小学校　**若　竹　隆　邦**

檜山では、各教育研究団体を束ねた「檜研協」という組織がありましたが、サークル活動が低調で2年ほど前に解散しました。それに替わって各町教研を母体とした総合研の立ち上げの動きが進んでいます。町教研自体も学校の統廃合や少子化のため教員が少なくなり、単独では研究が深まらないので近隣の町を統合した組織をつくっています。檜山南部は江差、上ノ国、厚沢部町で南部三町教育研究会がスタートしました。

檜山造形教育研究会はこれらの組織とは別に活動していますが、児童生徒美術展の開催時には、三町教育研究会の図工美術サークルにも協力依頼し、展示や審査にも携わってもらっています。また、今年度予定している実技講習会にも参加を呼びかけ、タイアップして進めていきます。このような活動を通して、当会も含めサークル活動が活発化し、管内の図工・美術教育の振興が図れればと考えています。

図工のよさを多くの先生に

●小樽市教育研究会（図工部会）

小樽市立忍路中央小学校　**竹　生　　元**

小樽市では、全市の先生方を対象に、年5回のペースで研究会を行っています。これは、他の教科もそれぞれ行われており、各教科の実践を深めることができる絶好の機会となっております。中学校においても同じように部会が開かれています。教科については、専門の先生方だけではなく、その教科に興味を持ち、実際の授業に生かしたいという先生方も多く含まれます。現在は、各学校の図工担当の先生方や学級担任を中心に、日常の実践交流や小樽市の児童生徒の小中図工美術展を主催したりといった活動を行っています。

過去2回は、学年ごとのブロックに分かれて、実際に指導してみての悩みや工夫など交流し合っています。特に指導技術の情報交換が活発です。また、教科書の改正による教材の研究や、評価についての話し合いもされていました。年５回の一斉部会以外でも、美術展鑑賞会や実技講習会なども開かれています。実技講習会を計画し、部会員以外の教職員にも参加してもらうようにもしています。図工教育の果たす役割を多くの教師に知ってもらうことをねらいにしています。